

---

---

**保健看護実習 A (母性)****山口 雅子 教授**  
**齋 藤 真 希 講師****3 年次後期～ 4 年次前期****2 単位・ 90 時間**

---

---

**【概要・目標】**

看護の対象を母性の視点から理解し、母児の健康を保持増進して行くための看護を学ぶ。特に周産期の対象理解を深め、必要な知識・技術・態度を養う。

1. 実習を通して、生命の尊厳や新たな家族の形成について自己の考えを深め、母性看護の役割について考察する。
  2. 周産期にある対象を身体的特徴、心理的特徴、社会的特徴の側面から理解する。
  3. 対象に応じた看護過程を展開する。
  4. 看護計画に基づいて看護実践を行う。
  5. 母児の健康を維持・増進するために必要な継続看護と保健指導について理解する。
  6. 周産期医療におけるハイリスク状態にある児と家族の特徴を理解し、ケアについて学ぶ。
  7. 地域における母子保健活動について理解する。
- なお、詳細については、実習要綱を参照。

**【評価】**

実習目標達成度 (60%)、実習への参加態度 (20%)、提出物 (20%)

---

---

**保健看護実習 B (小児)****井 上 みゆき 教授**  
**狗 巻 見 和 講師****3 年次後期～ 4 年次前期****2 単位・ 90 時間**

---

---

**【概要・目標】**

目的：看護専門職を目指す実習生として、エビデンスに基づき子どもに最善のケアを提供するために、看護計画を立てる・実践する・評価する基礎能力を修得する。

1. 子どもの成長発達、病態を理解し、入院が子どもと家族に与える影響を理解する。
2. 子どもと家族の健康状態を把握し、必要な看護を計画、実践、評価する。
3. 子どもに携わる職種を知り、看護の役割を考える。
4. 看護専門職を目指す実習生としてふさわしい態度で実習に臨むことができる。

**【評価】**

実習目標達成度を記録、実践、姿勢・態度、カンファレンスでの発言、提出物から総合的に評価する。